

第5投目：そこはいかなる海か？いざ、横当島へ



2015.3月某日、ついにその日がやってきました。横当島へ尾長グレー発大型狙いの遠征です！ちょうど奄美磯釣連盟3月大会中に渡航できる良い天気为重なり、古仁屋港から片道3時間弱の船旅、クラブメンバー数名で渡船に乗り込み、まだ真っ暗な午前4時に出港しました。

横当島はトカラ列島最南端に位置する無人島、二つの島から構成されています。視界の良い日には奄美大島から西側海域に肉眼でもうすら確認することはできますが、とにかく魚影が濃くワクワクする海が残っていると聞く場所

です。『クロが湧いてクーラーに入らなかったらどうしよう…』口外すらしなかったものの、アホな期待に胸を膨らませながら、午前7時前に名前も知らない離れ瀬に渡礁することになりました。

以前横当島へ釣行したことがある仲間の話から、クロは上げ潮に分があるのではないか？と予測を立てていました。時間はちょうど上げ潮に変わる時間、潮の流れ、魚の活性、釣り座を決めるために撒き餌を始めると、その1杯目からものすごい数の小型イスズミが海の底から湧きあがるように姿を現しました。その圧倒的な数はいつも釣りをしている奄美の海ではまず見たことはありません。クーラーに入りきれない魚はどうやらイスズミになりそうです↓

『この状況が続くならクロが見えんと厳しいわぁ…』そう思いながら、魚釣りはそこそことにかくクロを探す事に専念する時間が過ぎました。潮が思うように動き出さない中、一番魚が確認できる場所に陣取っているとイスズミ軍団の下のタナに1匹だけ尾が白い魚が見えました。しかし見えたのは2回ほど、どうやらそのクロは他の魚に負けじと餌を捨てるほど活性は高くないようです。私は100匹の魚の中から1匹のクロを釣るための釣りを試み続けました。その20分後、型は小さいながらも何とか記念すべき横当島第1号のクロをゲットすることができたのです。

さて時間は過ぎその2時間後、見えていながらもなかなか刺し餌を口にしないカスマアジの動きが急に良かったタイミングでした。元気に餌を捨てるクロがどこからともなく登場、不思議とクロが元気に餌を捨てる場所にはイスズミ軍団が遠慮しているのか寄ってくるのに時間のズレが生じているのです。そのズレを狙って2匹目を無事ゲットすることができました。

今回の遠征で、私のクロ釣果は結局2枚のみ。しかし、ものすごい魚の数、磯の周りは貝だらけ、鬼ヶ島を彷彿させる荒々しい島の景色、全てが新鮮で原始的な海がそこには残っていました。来シーズンも挑戦したいステージがまた一つ増えた釣行となりました。

